

A

# どのような英語活動が 優れた活動なのでしょう

Z

来年度から、小学校5、6年生で英語活動が必修化されます。長年、小学校の教育現場で英語活動を実践され、大学や大学院でも教員養成にたずさわってこられた、昭和女子大学附属昭和小学校の小泉清裕校長先生に、どのような英語活動が優れた活動であるか、また、よりよい英語活動をつくるのに必要なことは何かなど、昭和小学校の授業紹介を通してお話いただきました。

シリーズ予定

- ①〈本号〉どのような英語活動が優れた活動なのでしょう
- ②〈8号〉クラス担任の先生がつくる英語活動
- ③〈9号〉よりよい英語活動をめざして



**「英語を教える」が 落とし穴に**

小学校の先生が英語活動に対しておよび腰な最大の理由として、「自分は英語が苦手な理由として、自分は英語が苦手な理由として、話すことはできない」と思っていることでしょう。

先生方は高校や大学入試の際に一生懸命に英語も勉強して合格してきましたが、英語の勉強をあまり好きではなかった人が多いように感じています。それは、中学校や高等学校で勉強してきた英語が、入試以外で役に立つ経験をしてこなかったことが

P

V

R

G

Y

B

O

原因なのでしょう。

言葉の学習は、本来楽しく、役に立つ活動であるはずですが、生まれたばかりの赤ちゃんにも母親は話しかけます。その話しかけを積み重ねることで、赤ちゃんは母親の言葉を徐々に理解し、そのうちに自分からも言葉を話すようになります。人間は生まれながらに、言葉をつかいたいという気持ちがあり、言葉を理解し、そして、つかうことができる力があるからです。

しかし、無理やり言葉を教え込もうとすると、子どもたちはそれに対して拒否反応を示します。小学校英語活動でも、教え込もうとすると決してよい結果は得られません。英語を「教える」ことを避けて、楽しく、ゆつくりと英語に「触れる」活動を行うべきです。

**「英語」は別なもの**

小学校の1年生になって初めて「国語の授業」を体験します。

小学校入学までの6年間、生活の中でつかってきた生活言語としての日本語を、学習言語としてとらえ、その仕組みや成り立ちについて学ぶのです。中学校での英語学習は、この学習言語活動が中心になっています。

しかし、本来はその前に十分な生活言語体験が必要になります。小学校の英語活動は、赤ちゃんが言葉を学ぶように、まず、「聞くこと」から始める生活言語体験であるべきです。

言い換えれば、英語を「教えない」ということを教師は意識すべきなのです。「教える」ことの中には、間違いない、正確な英語を身につけさせようとする気持ちが強く現れています。

もちろん、誰でも正確で間違いない英語をつかいたいと願っていますが、そのような英語学習に進む前に、多くのわからないことや間違いを経験する、生活言語としての英語体験が必要になります。

たくさんさんの間違いをししながらでも、英語をつかってみようという

気持ちを培うことが、小学校英語活動の本当の目的です。

**「ネイティブ」であることが「英語指導者の免許」ではない**

英語活動を指導する先生がネイティブスピーカーや英語の得意な人ならば、指導するのが楽だと誰もが思いがちです。

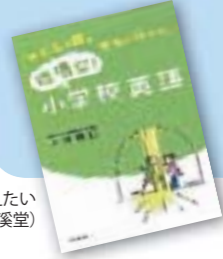
しかし、英語が堪能な人が話す英語は、小学生には難し過ぎるものが多く、子どもたちが先生の話を聞くこととする気持ちを失ってしまいます。

次のページで紹介している英語活動の先生は、ネイティブスピーカーと同等の英語力のある方で、しかし、母親が子どもに話しかけるように、興味深い内容を見ていねいに、しかも、子どもがわかるような英語を選んで語りかけています。理解が難しいと予測できる場合は、実物や写真などを見せながら、子どもたちが話の内容を推測して、なんとか理解できるように工夫をしています。



次ページで紹介する英語活動の授業の様子

昭和女子大学附属昭和小学校 校長  
**小泉 清裕**  
こいずみ きよひろ\* 1977年から昭和女子大学附属昭和高等学校で英語教員として教壇に立つ。以後、同附属中学校、及び同大学で英語教員として勤務。1994年から同附属小学校の英語教育の開成にともない、小学校で英語教育の実践と研究に従事し、同時に附属幼稚園での英語活動の指導も行ってきた。現在は附属小学校校長の任にあわせて、同大学と大学院で小学校英語教育についての講座を持ち、教員養成にもかかわっている。2010年現職。NHK教育テレビ「スーパーえいごリアン」の企画委員、日本児童英語教育学会副会長。著書も多数。



『子どもと先生に伝えたい現場発! 小学校英語』(文溪堂) 定価1,600円

Mr.KOIZUMI's Comment



子どもたちに作業の指示を伝えるのが難しいですね。

**小泉** お疲れさまでした。子どもたちも興味深く取り組んでいて、なかなかいい授業でしたね。

**有松** ありがとうございます。でも、動物の絵をはさみで切らせるとき作業時間を指示しなかったら、ていねいにやりすぎる子どもが続出して、ちょっと時間が足りなくなっていました。

**小泉** 作業の指示を出すのは難しいですね。

**有松** そうですね。細かく説明しようとしても、なかなか伝わりませんから。

**小泉** そういうときは、無理に言葉で説明しなくてもいいと思います。作業の指示は日本語でする場合でも難しいですから。先生がその作業をやってみせて、言葉で補う…くらいに考えたほうがいいですね。

指示は先生がやってみせて伝える。言葉は「補う」程度で。

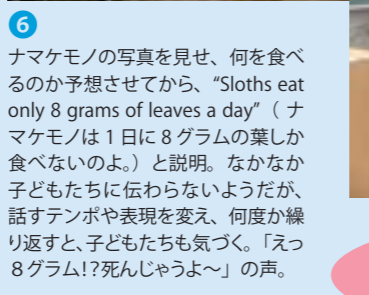


Where is Africa?

This is a sloth. "Sloth" is NAMAKEMONO.



**5** 黒板に、地域ごとにわけた世界地図を貼っていく。大陸の向きを上下逆さまに貼ってみせると、子どもたちは「ちがうよ!」と大騒ぎ。それぞれの動物がすんでいる地域を考えさせる。



**6** ナマケモノの写真を見せ、何を食べるのか予想させてから、「Sloths eat only 8 grams of leaves a day」(ナマケモノは1日に8グラムの葉しか食べないのよ。)と説明。なかなか子どもたちに伝わらないようだが、話すテンポや表現を変え、何度も繰り返すと、子どもたちも気づく。「えっ8グラム!?死んじゃうよ〜」の声。



**7** 8グラムの葉とはどのくらいの量なのか、家庭科室にある計量器で実際にはかってみせると、子どもたちはその少なさにびっくりして興奮。このころになると、子どもたちはこれが英語活動の授業だということを忘れてしまったかのよう。



Use your glue to put the animal on the chart.



Pull down the blinds.

**2** 授業開始早々、窓側がまぶしいのでブラインドをおろすことになったが、この指示も英語。ただ、子どもたちは英語を理解したというよりも、「ブラインド」という言葉に反応しただけのようであった。



Let's sing ABC Song.

導入はABCの歌にあわせて、自分の名前につかわれているアルファベットのところで手をあげるゲーム。先生自身がやってみせることで、英語での説明が十分に理解できない子どもでも、ルールを把握できた。



Do you know any animal which starts with an A?

**4** 導入のゲームで子どもたちもリラックスしてきたところで、メインの活動に。黒板にアルファベットを書き、その文字を頭文字とする動物をあげさせる。「ゴリラ」「ライオン」など、子どもたちは日本語的な発音だが、それを直すのではなく、再度先生が発音していた。



Good morning, everybody.

**1** 授業開始のあいさつはもちろん英語。このやりとりは子どもたちも全員英語で行う。

昭和女子大学附属  
昭和小学校  
有松真規子先生  
の授業  
\*  
4年生

この日の授業のメインの活動は、動物のすんでいる場所と食べ物結びつける活動で前回の授業からの続き。「行事の関係で2週間ぶりの授業なので前回の内容をどの程度覚えているか、ちょっと心配」とのことだったが…。

時間	内容	学習内容
10:00	あいさつ	Good morning
10:05	1. 文法	How are you?
10:10	2. 文法	I'm fine, thanks.
10:15	3. 文法	How is the weather?
10:20	4. 文法	It's sunny.
10:25	5. 文法	Please write your first name on your first name card.
10:30	6. 文法	What's your name?
10:35	7. 文法	Let's sing "ABC Song".
10:40	8. 文法	Please read the words on the board.
10:45	9. 文法	Let's try to write the words on the board.
10:50	10. 文法	How did you do?
10:55	11. 文法	Do you know about any animal which starts with an A?
11:00	12. 文法	How about you?
11:05	13. 文法	What are the animals on the board?
11:10	14. 文法	What are the animals on the board?
11:15	15. 文法	What are the animals on the board?
11:20	16. 文法	What are the animals on the board?
11:25	17. 文法	What are the animals on the board?
11:30	18. 文法	What are the animals on the board?
11:35	19. 文法	What are the animals on the board?
11:40	20. 文法	What are the animals on the board?

指導案は、[hito\\*yume](#)のホームページからダウンロードできます。

- [文溪堂トップ](#)
- [学校用教材](#)
- [hito\\*yume](#)
- [インデックス](#)

ネイティブと同じ発音  
有松先生の英語力

でも赴任当初は、子どもたちに伝わらなかつた英語…

授業を見せていただいた有松真規子先生は、昭和小学校で英語の授業を担当して7年目。

「最初のころは気負いもあって、とにかく英語を話し続けました。でも、わたしが言っていることがなかなか子どもたちに伝わらない。「英語」を意識するあまり、わたしの表現が難しくなりすぎていたのです。」

そこで、表現の仕方に工夫するようになったという。

「まずは子どもたちが聞き取りやすいように、ゆっくり、はっきり話すことを心がけました。母親が幼児に話すように、表現はできるだけシンプルに。身振り手振りも意識して取り入れました。ものを見せながら話すというこの効果にも気づきました。実物が用意できなければ、絵や写真でもいいんです。それらを見せながら話す子どもたちの関心がぐっと高まるのを感じます。」

こうした活動の中から伝わりやすい言葉を見つけたら、それを繰り返しつかい、

「英語で説明を受ける」ことに、子どもたちを少しずつ慣らしていきました。」

「勉強じゃないと思ってた!」

授業中、有松先生は日本語を一切つかわない。しかし、子どもたちに英語で応えることを求めるわけでも、特定の子どもを指名し発言させるわけでもない。子どもたちの発話は日本語の場合もあるが、知っている英単語一語の場合が多い。「子どもたちには、「勉強」という意識はあまりないようなんです。「歌ったりゲームをしたりする楽しい時間だと思ってた」とわたしに話した子どもが実際にいたんです。その子どもにとっては、たまたま活動を英語でやっていただけのことだったのでですね。」

有松先生はいまの段階ではそれでいいのではないかと言う。

「小学校の英語活動では、子どもたちに英語のシャワーをどんどん浴びせているうちに、『英語を話す人とのコミュニケーション』に慣れ、聞いていけば英語はわかると感ずることが大切なのではないでしょうか。」

子どもたちが耳をすませて、先生の英語を聞き取ろうとする姿がとても印象的でした。

P

V

R

G

Y

B

O